

高等学校

平成 15 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

地 理 歴 史 ・ 公 民

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平成15年度

教 育 研 究 員 名 簿

分科会	所 属	氏 名
第1分科会 「近代日本 外交」	両 国 高 等 学 校	永 谷 雅 仁
	町 田 高 等 学 校	清 水 篤
	小金井工業高等学校	藤 井 恵 子
	農 芸 高 等 学 校	宮 沢 健 治
	桐ヶ丘高等学校	倉 澤 俊 仁
第2分科会 「中東地域 及びイスラ ームの理解 と日本社会 との関わり」	忍 岡 高 等 学 校	秋 元 仁
	野 津 田 高 等 学 校	宮 路 みち子
	港 工 業 高 等 学 校	長 村 嘉 浩
	桐ヶ丘高等学校	近 藤 泉 子

担当

東京都教職員研修センター 指導主事

溝 辺 良
大 場 充
増 田 正 弘

目 次

主題設定の理由	-----	2
内容		
1 第1分科会「近代日本外交」		
(1) 内容設定の理由	-----	4
(2) 研究内容と方法	-----	4
(3) 学習指導案 第1時	-----	6
第2時	-----	7
第3時	-----	8
第4時	-----	10
第5時	-----	11
(4) 評価	-----	13
参考資料(自己評価票)	-----	15
資料(ワークシート)	-----	16
2 第2分科会「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」		
(1) 内容設定の理由	-----	21
(2) 研究内容と方法	-----	22
(3) 学習指導案 第1・2時	-----	24
第3・4時	-----	26
第5・6時	-----	27
第7・8時	-----	29
(4) 評価	-----	31
資料(ワークシート)	-----	33
(5) 授業実施後の考察	-----	37
まとめ	-----	39

研究主題

国際社会に生きる人間として、諸問題の解決に向けて自らが主体的に判断し行動できる能力や態度を育成する指導と評価の工夫

主題設定の理由

1 研究主題について

今年度から、年次進行によって実施される高等学校学習指導要領における地理歴史科の目標には、「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う」と記され、また公民科の目標には、「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」と記されている。

「アメリカ同時多発テロ事件」や「イラク戦争」等の後、国際社会において日本の果たすべき役割や責任も増大しつつある。地理歴史科、並びに公民科の学習目標の「国際社会に主体的に生きる」、「人間としての在り方生き方についての自覚を育てる」という部分は、国際社会における日本の在るべき立場を生徒自らが考え、かつ他国との間の相互理解をはぐくむための基本となる。それは、民族紛争や宗教的紛争等、諸問題を抱えている地域の歴史・社会の特色を理解し、民主的、平和的な国家・社会の一員を育てるための基礎となるものであり、それらに必要不可欠な事柄であろうと考えられる。

そこで、本研究では「近代日本外交」及び「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」の二つを題材として、歴史的背景、地域的特色、政治・経済・文化的特色などの要素を織り交ぜながら、地理、歴史及び政治経済について主体的に考えさせる学習を目指した。その方法として、今後の国際社会に対して主体的に関わる姿勢を、生徒が身に付けることが可能になる指導法と教材を工夫しようとした。実際の授業においては、暗記中心に陥ることがないように、ワークシートの中に文献資料・統計・地図などを精選しながら取り込み、生徒が考えるためのヒント（話材）を教員が数多く提供するように学習指導の手段を立て、生徒が事項の理解に必要な知識や思考力を身に付けられることを目標とした。

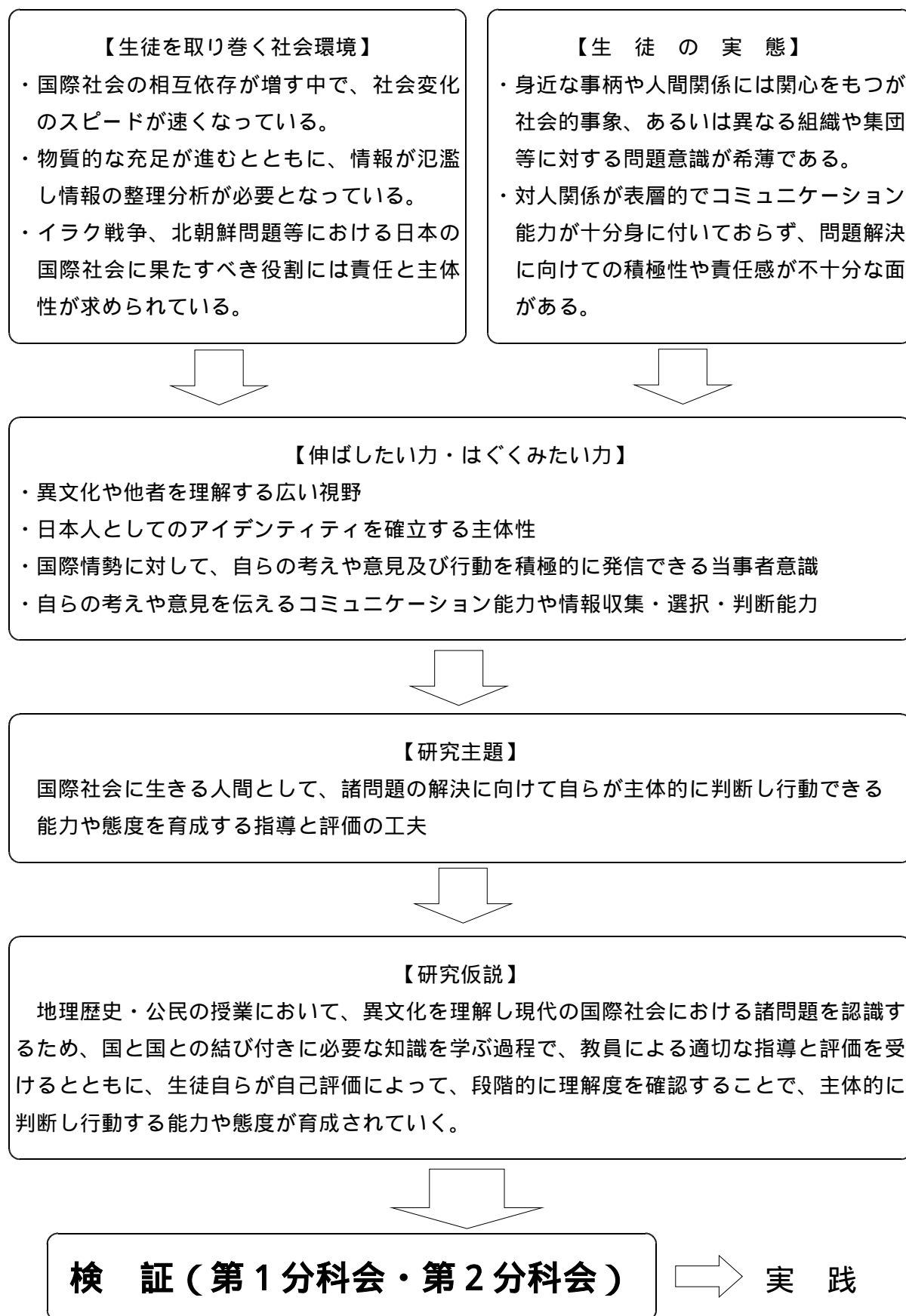
2 評価について

授業実施後、アンケート形式で生徒の意見や感想を集約し、授業の成果を把握した。また授業評価のみならず、生徒の自己評価も盛り込んで生徒各人に授業への取り組み状況を自覚させ、それ以降の授業に向かう姿勢を育成していくように導いた。

そのために、質問の内容を吟味し、アンケート結果の活用方法についても検討し、教師自身の授業改善と学習内容の反省、及びそれ以降の教材研究につなげていった。

なお、学習指導案では評価の観点を、関心・意欲・態度を【関意態】、思考・判断を【思判】、技能・表現を【技表】、知識・理解を【知理】と表記した。

研究構想図



・ 内容

1 第1分科会 「近代日本外交」

(1) 内容設定の理由

平成13年9月11日に起こった「アメリカ同時多発テロ事件」や平成15年の「イラク戦争」後、日本が国際社会で果たす責任は一層重くなりつつある。

こうした状況を踏まえて、他者（他国）との関係において今後日本人に求められる課題を考え、日本人が国際社会で主体的に行動できる姿勢を育成していくことは重要であり、そのためには、日本の外交を含めた国際関係の歴史についても問い直すことが大切である。

これらの課題を解決していくために、本分科会（日本史グループ）では、特に1850年代から1960年代までの近現代日本の外交史及び国際関係の歴史を学習することを通して、日本人としての在り方を明らかにし、生徒の主体的な学習を促していくこととした。近代における日本の外交・国際関係には、教材として取り上げるべき人物・事件が数多い。本分科会では、近代における外交に関係する人物、事件及びアジアを取り巻く国際関係を生徒に学習させ、日本がその節目においてどのように行動し対処していたかを生徒自身が理解できることを課題とした。このような課題を掘り下げていくことにより、日本の外交・国際関係の歴史を多様な視点から考察させて、過去の分析を行いながら現在の日本の外交姿勢について考えさせ、今後の日本人の在り方について生徒自身が考える手がかりとなるようにした。

以上のように、日本史の教科指導の中で、近代日本外交をテーマに、国同士の結び付きとそれに伴う外交思想を具体的に学習させ、さらに人と人とのコミュニケーションの大切さに気付かせていくことで、国（人）と国（人）との結び付きには果たして何が必要なのかを問いかけた。そして学習のねらいとして、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として、諸問題の解決に向けて主体的に行動できる自覚と資質を育成していくことを想定した。

(2) 研究内容と方法

日本の外交姿勢を学習することを通して他者とのつながりにおいて大切なことは何かを追究し、次のような学習項目に区分して、近代日本外交を俯瞰させた。方法として、各時期の外交の節目で活躍した人物・起こった事件及び問題点（各時期における課題）を学習することによって、今後の日本人の在り方を生徒が気付くことができるようにした。

また、各時の最後に生徒自身が理解度を5段階で示し、それを受けて教員がアドバイスやコメントをつけて返却することにより、生徒の理解を一層深めることができるよう、ワークシートを工夫した。最終時には生徒に興味・関心の度合い・理解度をさらに深めるため、自己評価票を記入させ、これらのことを総合して、学習についての評価を行った。

なお、以下の指導計画は、近代日本外交をテーマとする主題設定学習であり、高等学校学習指導要領地理歴史編の第2章第4節日本史B「2 内容とその取扱い（1）歴史の考察 エ 世界の中の日本」に相当するもので、「我が国と外国との交流や相互理解などに着目して、外国人が日本をどう見ていたか、また日本人が世界をどう見ていたかについて追究させる。」にあたるものである。

【指導計画案】

	学習項目	具体的な学習内容・学習活動	留意点
第1時	・近代以前の対外関係における当事者の対応と言動	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以前の対外関係の歴史について当時の人々の対応や対外政策について考える。 ・当時の人々の立場に立ってそれぞれの出来事の背景にある状況や国際関係についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外交が近代になって複雑化する状況に気付かせる。 ・近代以前の対外関係の中で特徴的な人物や出来事を取りあげ、生徒に興味をもたせる。
第2時	・日露戦争前夜から条約改正まで	<ul style="list-style-type: none"> ・開国から条約改正での法権の回復に至る経過の概略を理解する。 ・日本政府が外交官や軍人等を積極的に外国に派遣して知識を吸収させたことを理解する。 ・日露戦争からポーツマス条約までを概観し、不平等条約の改正が成就したことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・維新以降の人材育成が基盤にあったことを理解させる。 ・明治期になると民衆の意識が急速に成長したことをに気付かせる。 ・国際関係の変化が日本の立場の強化に大きな影響を与えたことを理解させる。
第3時	・第二次世界大戦前夜（日独伊三国軍事同盟）	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦から日独伊三国同盟までの国際情勢を理解する。 ・日独伊三国同盟の締結を巡る日本の外交姿勢と当時の国際社会の状況を考える。 ・政策と背景について、昭和の外交と明治の外交との違いをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際関係と日本の政策を理解させ日独伊三国同盟締結の背景を確認する。 ・中国大陆を巡る日米関係について国際情勢をもとに考えさせる。 ・小村外交と松岡外交を比較し相違点を確認する。
第4時	・日本の台湾統治	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の台湾統治について具体的な資料を読み取りながら、日本の植民地政策について考える。 ・日本統治時代の日本人と台湾人の結び付きを理解し、さらに現在の日本との関係も考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の統治を多面的に理解できるように、資料を分析させる。 ・具体的な事例をもとに台湾での日本人の活動と現在の対日感情を理解させる。
第5時	・戦後の日本（国際社会への復帰）	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を使って、第二次世界大戦での敗戦から国際連合への加盟までの日本の外交について理解する。 ・サンフランシスコ平和条約など国際関係を背景とした日本の外交についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連合国による占領についてドイツ等と比較して説明する。 ・「冷戦」におけるアメリカ・ソ連の立場を明らかにし日本の外交について気付かせる。 ・国際関係における課題と対応方法について考えさせる。

(3) 学習指導案

第1時 近代以前の対外関係

ア 本時のねらい

5時間構成の「近代日本外交」の第1時として、全体の導入となる授業を展開する。第1時は、近代以前の対外関係の中からいくつかの題材を取り上げ、変化していく国際環境と多様な国際関係について理解させる。特に、日本から見た世界認識だけでなく、諸外国から見た日本の姿について生徒が考えをまとめることができるよう、近代日本外交について考える動機付けとなる授業を展開する。

イ 本時の展開

	学習事項	学 習 活 動	指導上の留意点と評価
導 入	・ 黒船来航について	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペリー来航時の日本側の対応について、資料を見て考える ・ 黒船を見た当時の人々の対応が当惑するだけでなかったことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来への対応とどこが違っていたかを指摘する。 ・ 数年後に日本も蒸気船を進水させた事実を指摘し、日本の技術水準や国際情勢の理解度を指摘する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教伝来について ・ 蒙古襲来について ・ 鉄砲伝来について ・ 鎖国について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『日本書紀』を読んで、百済伝来の仏像に対する欽明天皇の反応について考える。 ・ 『隋書倭国伝』の遣隋使派遣の史料を読んで、対等外交を主張する国書を送った背景について考える。 ・ 『フビライの国書』を読み蒙古の使者に対する北条時宗の対応について背景を考える。 ・ 種子島に漂着したポルトガル人から種子島時堯が鉄砲を買い求めた理由や、鉄砲伝来がもたらした影響を考える。 ・ 『ケンペルの日本史』の鎖国観や各種の鎖国論の資料を読み、幕府が鎖国を選択したことについての自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教そのものよりもそのような仏像を鑄造した技術に対する驚きについて気付かせる。 ・ 資料を読み取らせ、聖徳太子が国書を送った当時の国際情勢に気付かせる。 ・ この当時、もし武家政権が存在していなかったらどうなっていたかを考えさせる。 ・ 鉄砲の使用法と製造法を家臣に学ばせようとしたことを指摘する。 ・ 来日した外国人宣教師の日本人観について紹介する。 ・ 「鎖国」の語が当初からの言葉ではないことを理解させ、外交にかかわった民間人の例として高田屋嘉兵衛について触れる。

ま と め	・ 再び黒船来航について	・ 阿部正弘の立場に立って、開港か攘夷かの決断をする。あるいは第三の方法について考える。	・ 結局、幕府は開港を選択し、列国との間に不平等条約が締結されたことを指摘する。 【関意態】日本と他国との関わりについて関心をもつことができる。
	・ 本時のまとめ	・ 近代以前の対外関係についてワークシートにまとめる。	・ 次回の学習内容について説明し、安政の五ヶ国条約等の確認をする。 【知理】日本の対外関係を概観し理解することができる。

第2時 日露戦争前夜から条約改正まで

ア 本時のねらい

5時間構成の「近代日本外交」の第2時として、日露戦争前夜から関税自主権の回復に至る時期の日本外交を取り上げる。不平等条約の締結後、明治維新を迎えた日本は、既に東アジアへ進出していた列強の帝国主義政策と伍していくことになったが、それは国際社会における近代日本黎明期の外交が、自らのアイデンティティを模索した時代でもあった。

本時は、上記の時代における外交を担った主な人物等を紹介しながら外交政策の在り方を考えさせる。

イ 本時の展開

	学習事項	学 習 活 動	指導上の留意点と評価
導 入	・ 前時の復習	・ 安政の五ヶ国条約等の前時の学習をまとめる。 ・ 条約改正での法権の回復に至るまでの経過の概略を確認する。	・ 外相陸奥宗光の外交努力、及びロシアの東アジア進出を警戒した英国が日本に譲歩し、日英同盟への道が開けたことを理解させる。
	・ 下関条約と三国干渉 ・ 外交官や軍人の国際感覚	・ 日清戦争以降、日本が軍備拡張を進め、帝国主義国家への道を歩み始めた背景について考える。 ・ 駐露武官八代六郎や、駐米公使小村寿太郎等の国際感覚を理解し、まとめる。	・ 極東における列強諸国の利害関係が輻輳する中で、日本が「臥薪嘗胆」の思いをしたことを確認させる。 ・ 秋山真之・広瀬武夫の留学先での見聞をもとに、小村等の国際感覚や情勢を理解させる。 【技表】資料を用いて当時の人々の考えをまとめることができる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日英同盟締結 ・ 日露戦争 ・ ポーツマス条約 ・ 韓国併合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英国が「光栄ある孤立」の立場を捨てて、急速に対日接近した背景について考える。 ・ 日露断交から開戦への経過における日本の外交政策を理解する。 ・ ロシア側が強硬姿勢を貫き、日本が妥協して調印したことを、統計や新聞等の資料を使い、整理・分析する。 ・ 日韓併合の経緯について各種の条約や国際情勢についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図を使い、ロシアの脅威が英国をはじめ欧米列強諸国に浸透していたことを理解させる。 ・ 外相小村寿太郎の外交活動について説明し、明石元二郎大佐の活動に触れる。 ・ 政府の決断を外債発行額等を使って説明しながら、日比谷焼き討ち事件を例に民衆の戦争に対する独自の意識にも注目させる。 ・ 韓国併合の基本に、ポーツマス条約があったことに注目させる 【関意態】近代日本の外交に興味をもつことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関税自主権の完全回復 ・ 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不平等条約の改正が、外交の成果によって達成されたことを理解する。 ・ 外交は、多様な見方をすることが大切であることを理解し、現代と比較した上で自分の意見をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本が欧米列強と対等な外交関係を築くと同時に、東アジアへ勢力の拡張を推進したことを強調する。 【知理】国際社会での日本の地位の確立を理解する。 ・ 次回の授業に向けて大正及び昭和初期の外交について概説する

第3時 第二次世界大戦前夜（日独伊三国同盟）

ア 本時のねらい

5時間構成の「近代日本外交」の第3時として、第二次世界大戦直前の日本外交を取り上げる。その後の日本の運命を決定づけた点で特徴的な事件である日独伊三国同盟の締結をテーマとし、第一次世界大戦前後から第二次世界大戦に至る我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察させる。さらに、同盟締結をめぐる日本外交の姿を通して、複雑化していく国際関係史の中で、主観的な見方だけではなく他者の立場になって考えることや多様な見方をすることの大切さについて理解させる。

イ 本時の展開

	学習事項	学習活動	指導上の留意点と評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の復習 ・ 本時の学習について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で学習した明治期の日本外交について復習する。 ・ 第一次世界大戦から日独伊三国同盟に至るまでの国際情勢を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポーツマス条約締結以降の中国問題における日本の立場を説明する。 ・ ヴェルサイユ体制及びワシントン体制下の日本の置かれた立場と推移について説明する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日独伊三国同盟の内容について ・ 日独伊三国同盟締結の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同盟条約文を読んで内容を把握する。 ・ 日本とアメリカ合衆国の関係について争点を考える。 ・ 松岡洋右外相が同盟を締結した目的を考える。 ・ 当時の国際情勢を通して松岡洋右外相の判断の誤りについて考える。 ・ 国際情勢の分析にはどのような観点から資料の収集・分析が必要か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同盟条約文中に引かれた下線部について発問し、アメリカ合衆国が仮想敵国となっていることを確認する。 ・ 日本とアメリカ合衆国の争点となっている中国問題について説明する。 ・ 松岡外相の略歴に触れ、同盟についての松岡の意図を説明し、その目的が日米戦争を回避するためであったことを理解させる。 ・ エピソードで、松岡外相のアメリカ観を紹介する。 ・ ドイツの対ソ外交における二重性を示す概念図を板書して、説明する。 ・ ドイツの対ソ外交に関する日本の認識不足があったことを説明する。 <p>【思判】戦前の国際関係について現代と比較して、自分の考えをもつ。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の小村外交と松岡洋右の外交を比較して、自分の意見や感想をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小村外交と松岡外交を比較し、当時の政策の課題についてコメントする。 <p>【知理】当時の日米関係について理解する。</p>

第4時 日本の台湾統治（今に残る親日感情）

ア 本時のねらい

5時間構成の「近代日本外交史」の第4時として、日本の台湾統治を取り上げる。本時では、日本の国際関係の一つの面として日本の植民地活動を取り扱う。従来触れられることが少なかった日本による統治について、人物・グラフ・図表などの具体的資料を読み取りながら台湾に現在まで残る親日感情とのつながりを考え、歴史的諸事象の背景や意味を様々な立場から考察できるようにする。

イ 本時の展開

	学習事項	学習活動	指導上の留意点と評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 台湾について 台湾と日本の関係 	<ul style="list-style-type: none"> 台湾の位置を確認する。 台湾に対する中国の主張を確認する。 現在の政治、経済の状況を確認する。 李登輝の「私は22歳まで日本人だった」についてその言葉の意味を考える。 現在の台湾の人の日本に対する感情を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 中国との関係や、台湾と国交を結んでいる国が限られていることなどにも簡単に触れる。 経済発展ぶりや民主的な政権交代など具体例を示す。 台湾が日本の統治下にあったことを確認させる。 台湾の人の日本への感情を予想させた後に、対日感情についての資料を読み取らせる。その際、全ての人が資料通りの対日感情をもっているわけではないことを補足する。 【関意態】台湾と日本との関係に関心をもつ。
	<ul style="list-style-type: none"> 台湾の略史 日本の台湾統治 	<ul style="list-style-type: none"> 日本統治にいたる略史を確認する。 資料を活用してどのような統治であったのか特徴と傾向を把握し、まとめる。 <ol style="list-style-type: none"> 農産物の生産量の変化について資料を使ってグラフを作成し理解する。 就学率の変化を表で読み取り、教育の普及について 	<ul style="list-style-type: none"> 清の統治を「化外の地」という言葉で確認させる。 日本統治に対する抵抗運動があったことも触れる。 日本統治を多面的に考察できるように留意する 【技表】統計処理とその分析を行う。 満州・朝鮮での日本の政策についても簡単に触れる。

展 開		<p>考える。</p> <p>3 日本人と台湾人の賃金格差を読み取る。</p> <p>4 人口の変化を確認し、その意味を考える。</p> <p>5 八田與一についての文章を読み、努力した人々の活動を理解する。</p>	<p>・経済や教育の発展についてイギリスのインド支配やオランダのインドネシア支配での具体例をあげ、日本統治との差異に気付かせる。</p> <p>【知理】日本の統治を理解し、現在の台湾の対日感情を把握する。</p>
ま と め	・本時のまとめ	<p>・日本の台湾統治について、分かったこと、感じたこと等をワークシートにまとめる。</p> <p>・李登輝の訪日希望問題について考える。</p>	<p>・日本や日本統治に関する李登輝の発言を参考として示す。</p> <p>・日本統治時代の日本人と台湾人の結び付きに注目させる。</p>

第5時 戦後の日本（国際社会への復帰）

ア 本時のねらい

5時間構成の「近代日本外交」の第5時として、第二次世界大戦後の日本外交を取り上げる。占領政策の転換のなかで、サンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約の締結、国際連合への加盟が進められたことを、国際情勢の変化との関連の中で考え、現在の日本の平和が、どのような世界の動きの中でもたらされたものかを理解させる。

また、今後の日本においても、国際理解の推進と世界の中での日本の立場や我が国の国際貢献の拡大に着目させ、現代世界の動向と日本の課題及び役割について生徒自らが考察できるように配慮する。

イ 本時の展開

	学習事項	学習活動	指導上の留意点と評価
導 入	・本時の学習について	・第3時で学習したことを復習するとともに、第二次世界大戦を概観する。	<p>・ポツダム宣言が戦後の新しい日本のありようを示すものであったことを指摘する。</p> <p>【関意態】国際社会への復帰に興味をもつ。</p>
展 開	・占領当初の状況について	<p>・連合軍による日本統治の組織とその目的を確認する。</p> <p>・戦後の国際情勢の変化について理解する。</p>	<p>・日本統治の組織・目的について説明し、ドイツでの連合軍の占領政策との違いについて気付かせる。</p> <p>・国際情勢の背景である東西冷戦について説明する。</p>

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約締結の経緯について ・ 国際連合への加盟 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田茂首相の政策がどのような背景に基づいていたのか理解する。 ・ 条約締結の結果と影響についてまとめ、この結果が現在の日本の外交政策へ継続していることを理解する。 ・ 加盟による結果と影響について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田茂首相の略歴を紹介する。 ・ 国内世論が様々であったことに気付かせる。 ・ 東西冷戦の中で外交が行われたことを理解させる。 ・ サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約締結の背景について気付かせる。 ・ この時期、日本の外交の基礎が作られたことを指摘する。 ・ 1960年代中頃までに、国際通貨基金や関税と貿易に関する一般協定にも加盟し、日本の自立が国際的に認められたことを理解させる。 【思判】各国の動向を理解する。 【知理】日米関係を国際情勢の中で把握する。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時及び「近代日本外交」のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉田首相が進めた日本の国際復帰の道筋を考え、自分の意見等をワークシートにまとめる。 ・ 今回の授業「近代日本外交」全体を通しての自分の意見や感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめとして外交・国際関係では何が大切な要素なのかを考え、今後の日本の外交について考えさせる。 ・ 集計したアンケート結果については、別途機会を設け生徒に知らせることを説明する。

(4) 評価

評価の在り方

「近代日本外交」の学習を通じて人と人とのコミュニケーションの大切さに気付かせ、他者との結び付きに必要なことは何かを問いかけた。その過程で、生徒が国際社会において自信をもって平和に貢献し、諸問題の解決に向けて主体的に判断し、行動できる能力や姿勢を身に付けることができたかどうかを評価した。また、統計や史料等の各種資料を活用して、整理・分析を行い、特徴や傾向に気付き、そこから新しい手がかりや考え方を導き出すことができたかどうかについても評価を行った。

評価規準と評価計画

第1分科会では、主題設定学習「近代日本外交」の評価規準と評価計画を作成し、下記のとおり一覧表にしてア～エの4観点の評価計画を作成した。近代における日本外交とそれに関係する人物の動きや国際関係を理解し、国際社会に生きる中で大切なことが得られたどうかに重きをおくこととした。

【評価規準と評価計画表】

観 点	ア 国際関係への関心・意欲・態度	イ 国際関係についての思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 国際関係についての知識・理解	評価の方法
第1時	・日本と他国との関わりについて興味関心を、もっている。			・近世までの日本の対外関係の概略について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加態度 ・発問への反応 ・ワークシートへの記入及び内容の分析 ・自己評価票
第2時	・現代日本の役割を見つめ直す契機として明治期の日本外交に注目する。		・明治期の若手外交官・軍人たちの考えの一端を知り、自分の考えをまとめる。	・不平等条約の改正と対外進出の概略を理解する。	
第3時		・他国とのつながりで大切なことを考察し自分の考えをもつ。		・昭和初期の中国問題をめぐる日米関係を理解する。	
第4時	・台湾と日本との関わりについて関心をも		・資料や図表、作成したグラフを読みとつ	・日本統治時代の台湾の状況や現在の対日	

	っている。		ている。	感情を理解する。	
第5時	・国際社会への復帰過程に興味と関心をもっている。	・各国の立場の違いを理解している。		・冷戦の中での日米関係を理解している。	
評価規準の詳細	・外交史に関心をもっている ・発問やワークシートへの記入に積極的に取り組んでいる。	・各時代の国際関係について積極的に考察し、そこから教訓を得ようとしている。	・資料などから読み取ったことや自分の意見をまとめている。	・各時代の国際関係について正しく理解している。	

研究仮説の検証

「主体的に判断し行動する能力や態度が育成」されるために、本分科会では、生徒の自己理解度についてワークシートで毎回確認を行った（16～20頁ワークシート参照）。また疑問点や感想を記入する欄を設け、5分から10分程度の記入時間を確保し記入させた。このことによって大まかな生徒の理解度を教員が把握できるとともに、数字では把握しきれない生徒の考えを概括することが可能となった。生徒の意見には「授業がわかりづらい」「扱った資料は一方的な見方のものではないか」等の率直なものもあり、その都度、次回の授業で改善を行った。生徒の理解度を把握することで、声かけや机間指導をしてきめ細かい配慮を行って生徒の意欲の向上を図った。5時間の授業が終了後、授業全体についてアンケートを行った。（15頁参考資料参照）その中では、日本の外交史を系統的に把握できた、国際関係史の理解が広がった、といった意見の他、自分はこれから国際社会に対して何ができるのか考え直してみたい、大学で社会学を学び、日本社会の構造や意識について詳しく知りたい、といった意見があった。

この分科会での授業は5時間構成で、得られた資料も限定的なものであるため、仮説が完全に検証されたとは断定できないにしても、生徒の意見からは一定の効果が見うけられる。このような傾向が一過性のものではなく、本当に「判断し行動する能力や態度が育成」されていくことを証明するためにも、今後も教科・科目や学年を超え情報・資料をして収集していくことも大切である。また併用する指導法も、統計の分析や資料の読解の時間をもっと確保したり、グループ討議やディベートで意見の深化を図る等の工夫をすることで効果性も一層向上するものと考ええる。

自己評価票

- 1 今回の「近代日本外交」の学習でのあなたの取り組みについて次の5 1で自己評価してください。

5：たいへんよくできた 4：よくできた 3：どちらともいえない
2：あまりできなかった 1：できなかった

「近代日本外交」の学習に興味・関心をもつことができましたか、授業で扱った次の各テーマに関する自己評価を で囲んでください。

近代以前の対外関係 -----	5	4	3	2	1
日露戦争から条約改正まで -----	5	4	3	2	1
第二次世界大戦前夜（日独伊三国軍事同盟） -----	5	4	3	2	1
日本の台湾統治（今に残る親日感情） -----	5	4	3	2	1
戦後の日本（国際社会への復帰） -----	5	4	3	2	1
積極的に授業に参加していましたか -----	5	4	3	2	1
進んでワークシートへの記入ができましたか -----	5	4	3	2	1

- 2 「近代日本外交」の学習で一番勉強になったのはどのようなことですか。具体的に記してください

- 3 あなたが外交に携わる人（外交官）だったら、次の問題にどのように取り組んでいこうと思いますか。あなたの考えを述べてください。

北朝鮮問題（核問題・拉致問題など）

「イラク戦争」

- 4 「近代日本外交」の学習についての全体的な感想を書いてください。

（名前）

A 仏教伝来

仏教伝来については538年と552年の説があるが、『日本書紀』等の資料には、信仰の受け入れや政治方針を巡り蘇我氏と物部氏等の抗争があった。

問1 あなたが大和政権の豪族であるとして、蘇我氏と物部氏、どちらを支持しますか。

また、その理由は何ですか。

B 遣隋使の派遣

大業三年、其の王多利思比孤、使を遣して朝貢す。使者曰く、「聞くならく、海西の菩薩天子、重ねて仏法を興すと。故、遣して朝拜せしめ、兼ねて沙門數十人、来りて仏法を学ぶ」と。其の国書に曰く「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや、云々」と。帝、之を覽て悦ばず、鴻臚卿に謂ひて曰く「蛮夷の書、無礼なる有らば、復た以て聞する勿れ」と。明年、上、文林郎裴清を遣して倭国に使せしむ。

問2 帝(楊帝)は激怒したにもかかわらず、日本に使者を派遣しました。どうしてでしょうか？

『隋書倭国伝』

C 蒙古襲来

1274年と1281年の2度にわたって、九州の博多湾に元軍が襲来します。それ以前の1266年、フビライは日本に朝貢を要求する国書を送り、2年後、高麗の使者によって九州の大宰府にもたらされる。その年に18歳の北条時宗が幕府の執権に就任。その後も服属要求は続く。

D 鉄砲伝来

1543年、大隅国種子島に鉄砲が伝来する。島主の種子島時義は16歳。彼はポルトガル人から鉄砲を買い求め、その使用法と製造法を家臣に学ばせる。わずか数年後には、和泉国堺や近江国友などを産地として国産の鉄砲が量産されるようになる。

E ザヴィエル

彼らは一般には貧しいが、貧しいことを貴人も平民も恥辱とは思っていない。察するところ、彼らには、どのキリスト教国民にも見られないような性格がある。すなわち、平民はいかに富んでいても、貴人を貧富の別なく尊敬する。貴人はいかに貧しくとも、非貴族階級のものとは結婚しない。それによって名譽を失うと信じているからである。日本人はたがいに礼節を重んじる。……

日本人は道徳的に高潔であり、はなはだ人好きよく、知識欲に富む。

私は、いままです訪ねた国のなかで、キリスト教徒たるといなとを問わず、彼らほど窃盗を嫌悪する

国民に接したことがない……」

松田毅一『南蛮史料の発見』

○高田屋嘉兵衛

高田屋嘉兵衛は、江戸後期の廻船業者で蝦夷地交易に活躍、幕命により1799年、択捉島航路を開いた。1812年、国後島沖でゴローニン幽囚の報復としてとらえられカムチャツカに連行されたが、翌年帰国。ゴローニン釈放と日露両国の緊張緩和に尽力した。

F ペリー来航

黒船騒ぎの中で、蒸気船の建造を思い立った大名が最低でも3人はいた。薩摩と肥前佐賀と、そして伊予宇和島の殿様である。

老中掌頭、備後福山藩主の阿部正弘は開港を決意し、日米和親条約を締結した。

問3 あなたが幕政を担う地位にあったとして、どのような対応をとりますか。

また、あなたの決断は？

さらに、1858年には日米修好通商条約が締結され、他の国々とも同様の条約が結ばれるが、これは日本にとって屈辱的な不平等条約であった。

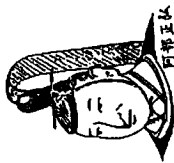
不平等条項の整理

本日の授業についての感想・疑問を書いてください。

今日の理解度 5 4 3 2 1

教員からのアドバイス

氏名



B. 小村寿太郎の外交姿勢

小村寿太郎(1855-1911)は、

[illegible]

秋山：外交には特別の技があるのですか？

小村：昔は、西暦の玉璽が外国へお慰金を送るときには「相手が一ツ嘘をつけばお前は二ツ嘘をつく」と命じたのです。外交に二ツ嘘をついて、相手を一ツ嘘をついて、相手が二ツ嘘をつくと信じられていたもので、嘘をつくことはなかなか難しかったです。ところが嘘をついて、相手が三ツ嘘をついたら、嘘を言わなければならないかもしれませんね。つちにはまだ判断が確しいです。ところが人間、嘘をついているかを判断しきれません。その先方は嘘をついてよす。ところで人間、嘘を言っているときにはものはもの言ひ方や態度に特有の癖が出るんですね、その癖をいち早く見破って先方の真意を察するんです。それが外交というものです、と、西洋の外交術の本には書いてあります。

秋山：北京でも、その手をお使いになったんですか？

小村：アハハハ。ときに秋山さん、この頃ジョージ・ワシントンの伝記を読んでいますかね、とても面白い人です。第一始めから終つてまで不遇不覚でいう。アメリカは独立戦争後、政權闘争がひどかったですね。大半の人は草原の色を著していたんだと、ところがその中でただ一人、ワシントンだけはアメリカ主義というものを唱えてどの党派もみんなその中に名をのめつたというのです。18世紀の政治家の中で一番偉い人高い。ちやんと立国の方針をもつて指導して居るのはワシントン一人だけだと思ひます。

秋山：やっぱり政治家はちゃんとした見識がなければ駄目ですね。その他、偉いというのは、どんな点でございますか？

小村：国内の政策でも、ワシントンは嘘をつかないと決めていました。周囲の人間たちも、ワシントンで政策したんは嘘がないと信じていたんですよ。真実派に言えば、「紙」の文字で押し通したのじゃないでしょうか。実際、嘘で外交をやっていくのはなかなか骨が折れます。よほど知恵を使わなければなりません。それでも、後になればきつとその嘘がバレてしまいます。嘘をもつて押し通しさえすれば、そんな余計な知恵を絞る必要はありません。

秋山：なるほど、"Honesty is the best policy"ですか。

小村：それぞれ、その言葉もワシントンのアメリカ国民に対する訓言なのです。深い意味のある言葉ですね。

外交には、正直が大切です。今度の国務卿（ジョン＝ヘイのこと）のやり方は、私のそれに符合しますよ。

鳥田蓮二『アメリカにおける秋山真之』朝日新聞社

問2. 上記の通り、小村舞太郎はその外交姿勢において生涯「正直さ」を貫いた。この姿勢に対する貴方の考えを記せ。



小村寿太郎

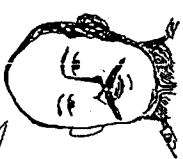
1878年 大平

父の事業失敗が元で

川幸王は和親使の為に
送ったが、
外相、陸奥宗光に
見出された。

小柄で渡せていたが
古武士の風格をもち
その由...

「T=0-5"」は
高く評価された。



八代六郎

薩摩以外の出身で

海軍のトウゾクに
1班物。

人格・見識共に
勝利・生涯を通じて

部 F-1-3

シーメンス事件の
志の海軍大臣と
しても有名。

— 17 —

氏名

西暦	外交関係の事件	日本外交の特徴
1914	第一次世界大戦が始まる 二大陣営…英仏伊米vs独奥 日本は英仏側について参戦…参戦理由は中国の利権獲得のため	
1915	第21条要求	
1916	日露協約締結	
1917	アメリカの参戦 ロシア革命	
1918	シベリア出兵(～1922) ドイツの敗北で第一次世界大戦が終結	や国における勢力図の拡大
1919	パリ講和会議…ヴェルサイユ条約の締結、五・四運動	
1920	国際連盟の結成	
1921～22	ワシントン会議…日英同盟廃止	日本の国際的地位はのち上と米英との協調
1924	アメリカが排日移民法を定める	
1928	張作霖爆殺事件	
1930	ロンドン海軍軍縮条約を締結	
1931	満州事変	日本の中国侵略・独逸との接近→国際連盟脱退 連・米英との対立
1932	満洲国建国宣言 リットン調査団	
1933	国際連盟脱退…日本ドイツの通告	
1934	ワシントン・ロンドン海軍軍縮条約を放棄を通告	
1936	日独防共協定締結	
1937	盧溝橋事件→日中戦争の開始 日独伊防共協定	
1940	日独伊三国同盟	
1941	南部仏印進駐・独ソ戦開始 太平洋戦争が始まる	近代日本外交の挫折
1945	敗戦	

B 日独伊三国軍事同盟条約 (1940.9. 締結/意訳・独訳) 締結当時の外相…

第一条 日本国はドイツ及びイタリアの欧州に於ける新秩序建設に關し、指導的地位を認め、かつこれを尊重する。

第二条 ドイツ及びイタリアは日本国の大東面に於ける新秩序建設に關し、指導的地位を認め、かつこれを尊重する。

第三条 日本国、ドイツ及びイタリアは前記の方針に基づき努力に於いて、相互に協力すべきことを約束し、さらに三つの締約国中いずれか一カ国が、現在欧州での戦争または歴史的事象に巻き込まれない一國によって攻撃を受けたときは、三國はあらゆる政治的、経済的及び軍事的な方法により相互に援助するべきことを約束する。

第五条 日本国、ドイツ及びイタリアは前記の諸条項が三締約国各々とソヴィエト連邦との間に現存する政治的狀態に何等影響しないことを確認する。

→ 第三条の「指導地位」は具体的にどここの国を指しているか？

C 1940.9. 来日したドイツ外相の特使シュタウナーとの会谈記録より

「先ず日独伊三国の間に三国同盟を成立させ、その後東にソ連に接近するのが最も良い。(中略) 日ソの親善はドイツが仲介に入る以上、大した困難なく実現すると思われる。独ソの関係は悪いと報じられているが、事實はそれと反対に、独ソの関係は良好であり、ソ連は独ソ不可侵条約で取り決めたドイツとの約束を満足に遂行しつつある。」



☞ 上の資料はシュタウナーの発言で、松岡外相の心の内を見透かしたような内容であった。
松岡外相の心の内 (ねらい) はどのようなものであったのだろうか？

D 独ソ関係について

①独ソ関係の最大の問題点

フィンランド問題 (ドイツ軍のフィンランド駐留)

1940.11. ヒトラー・モロトフ会談で決裂する

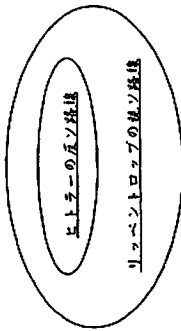
” ” 四国同盟 (協商) についてのスターリンの

回答…フィンランドからのドイツ軍撤退を

前提にしたもの

” ” 12. ヒトラーの対ソ戦準備指令

1941.6. 独ソ開戦



E 松岡洋右のアメリカ観 (1945. 敗戦後、記者に語った話)

「野中に一本道があるとすると、人ひとりやと通れる細い道だ。きみがこちから歩いていくと、アメリカ人が向こうから歩いてくる。野原のまんなかで、きみたちは鉢合わせだ。こっちも引かない。むこうも退かない。そうやってしばらく、互いに睨みあっているうちに、しびれを切らせたアメリカ人は、げんこつをかためてボカンときみの横つづらをなぐってくるよ。さあ、そのとき、ハッと思つて頭を下げて横に退いて相手を通してみたまえ。この次からは、そんな道で行き会えば、彼は必ずものもいわずになぐってくる。それが一番効果的な解決手段だと思うわけだ。しかし、その一回目に、きみがへこたれないうちに、何くそッと相手をなぐりかえしてやるのだ。するとアメリカ人はびびり、きみを見直さなう。おやおや、こいつは、ちよつといけるヤツだ、というわけだ。そしてそれから無二の親友になれるチャンスがでてくる。」 (三好 徹著『夕日と怒濤』)

問1 明治時代の小村寿太郎の外交と今日授業で学んだ松岡洋右の外交を比べてみて、あなたの感想を書いて下さい。

問2 日独伊三国同盟締結の頃の日本外交に必要であったものは何であったか、あなたの考え・感想を述べなさい。

今日の理解度 5 4 3 2 1
教員からのアドバイス

名前

A. 台湾について

台湾の政治・経済の状況

B. 日本の台湾統治

(1) 日本統治下の台湾

①下の表a・bは、日本統治下の台湾での、米とサトウキビの生産量の移り変わりをあらわしたものです。表をもとにグラフを作成してみましょう。

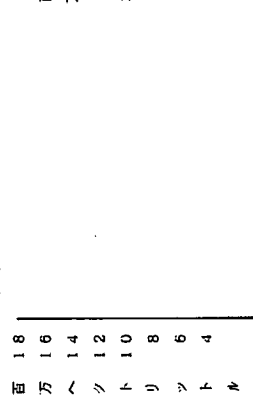
a. 米の生産量

年度	生産量(万ヘクトリットル)
1901	550
1910	760
1920	870
1930	1,330
1938	1,770

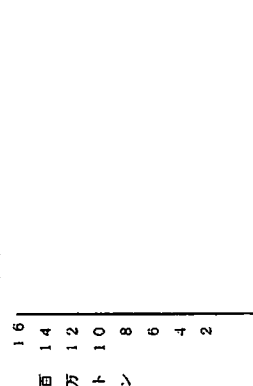
b. サトウキビの生産量

年度	生産量(万トン)
1902	76
1910	216
1920	263
1930	637
1939	1,282

aのグラフ



bのグラフ



李登輝氏

1901 10 20 30 40 1902 10 20 30 40
年度 年度

年度

台湾国民中学歴史教科書「台湾を知る」より

問1 a・bのグラフを作成してわかったことを書きましょう。

②下の表は日本統治下の台湾での就学率です。

c. 台湾人学齢児童就学率(%)

年代	男	女	平均
大正12(1923)	43.6	11.8	28.6
昭和5年(1930)	48.5	16.0	32.6
昭和13年(1938)	64.5	34.1	49.8
昭和18年(1943)	95.0	90.0	92.5

総務府統計「台湾の歴史」(原書房)より

問2 表cから、どんなことが読みとれますか？

③下の表は日本統治下の日本人(内地人)と台湾人の賃金の表です。

d 大正11年(1922)台北市における日本人と台湾人の賃金格差一覧表

(単位:円)

職種	日本人	台湾人	職種	日本人	台湾人
家作大工	3.50	1.80	染色	2.50	0.80
左官	4.00	2.00	洋服縫製	1.50	1.30
石工	4.00	3.00	活版植字	2.20	2.00
木挽	3.00	1.45	縫製夫	1.50	0.80
瓦葺	4.00	2.00	沖仲士	3.20	1.80
煉瓦積	3.80	3.00	貨物荷捌人	2.50	2.50
船泊	2.50	1.30	女中(月)	8.00	3.00
鋳物	2.50	1.20	漁夫	2.50	1.20
農作・男		0.50	茶摘女		0.18
農作・女		0.20			
総平均				2.88	1.28

※ 職種等の呼称は当時の資料によるものであり、現在の職業とは異なる。

「台湾の歴史」(原書房)より

問3 表dから、どのようなことが読みとれますか？

④以下の文は、現在の台湾で使用されている中学生用歴史教科書の一節です。
()に入る語句を予想してみましょう。

日本の植民地統治期には、総督府が有効に伝染病の防止と治療を行い、公衆衛生を強化し、また交通、産業、教育などを改善したことから、台湾の人口は長期にわたって高い出生率を維持し、死亡率は大幅に低下した。このため、人口は不断に増加した。1896年の人口は約260万人であったが、1943年に至ると約660万人で、丁度2.5倍の増加となり、増加の速度では全世界で()。

台湾国民中学歴史教科書「台湾を知る」より

問4 上で確認してきたことをもとに、自分が感じたことをまとめてみましょう。

問5 親日家の李登輝氏は、何度も日本への訪問を希望しています。しかし日本政府は李登輝氏の入国を許可しません。「台湾は()」と主張する中国政府に配慮しているからです。あなたは、この点についてどう考えますか。

今日の理解度 5 4 3 2 1
教員からのアドバイス

氏名

【第1分科会 ワークシート5】 戦後の日本

A 年表		外交関係の事件	その他の出来事
西暦	1945	敗戦、マッカーサー来日、東久邇内閣成立 極東委員会 GHQ 対日理事会設置 幣原重吉内閣成立	
	1946	極東委員会第1回会議 対日理事会第1回会議 第1次吉田茂内閣	国共内戦
	1947	トルーマン・ドクトリン、マーシャル・プラン 経済安定9原則発表	
1948	12		ベトナム領 大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国成立
1949	4	ドッジ＝ライン シャウブ勧告	中華人民共和国成立
8			東西両ドイツ成立
1950	6	朝鮮戦争勃発	朝鮮特需
7		警察予備隊設置	
1951	1	ダレス講和特使来日 マッカーサー解任、後任にリッジウェー サンフランシスコ講和条約、日米安全保障条約調印	
4			
9			
1952	2	日米行政協定調印	国際通貨基金 (IMF)
4		講和条約発効 (日本主権回復)	世界銀行 (国際復興開発 銀行) 加盟
10		警察予備隊を保安隊と改称	E C A F E 加盟
1954	7	自衛隊発足	神武景氣
1955	9	G A T T (関税と貿易に関する一般協定) 加盟	
1956	12	日ソ共同宣言調印、国際連合加盟 第二次中東戦争	
1958			綿底不況
1960		日米新安保条約成立	前年より岩戸景氣
質問	1948年～51年に至る日本をとりまく国際情勢を簡単にまとめてみよう。		

- B 日本改革に対する総司令部内の意見
総司令部内部には劇的な分裂が進展し、全政策立案者を二つの対立陣営に分けてしま
た、...一つの陣営は日本の根本的改造の必要を革新するもので、他の陣営は保守的な日
本こそ来るべきロシアとの戦争における最上の見方だという理由で基本的な改革に反対す
る。日本で必要なのは一寸その顔を上向きにさせてやることだけだということである。
マーク＝ゲイン 「ニッポン日記」 1945年12月20日
- C 吉田首相の発言 (1949年11月11日 第6回臨時国会)
「全面講和がもつとも望ましいが、現在の無条約状態よりは、むしろ早期 (単独) 講和を
希望する。目標としては、全面講和に移行したい」



質問 対日講和を急ぐアメリカのねらいは何だろう。

質問 吉田茂首相が考えた講和はどのようなものだったのだろうか。

D 単独講和と全面講和論
・日ソ共同宣言
1956年、鳩山首相訪ソにより、日ソ国交正常化が実現しました。その結果、連は日本
の国連加盟に対する安全保障理事会での拒否権行使を取り下げ、1956年12月には日本
の国連加盟が実現しました。

E 1955年 日米安全保障条約をめぐる意見交換での重光葵の発言
憲法第九条第一項で放棄されたのは「国際紛争を解決する手段としての戦争」であって自
衛戦争ではない、という解釈。つまり、憲法を改正しなくとも自衛のための兵力を持つこと
はできる。との解釈。

F 現行の日米安全保障条約第1条
「締約国は、他の平和愛好国と協同して国際の平和及び安全を維持する国際連合の任務が
一層効果的に遂行されるように国際連合を強化することに努力する。」

G 池田・ロバートソン会談
政治的、社会的制約
占領8年にわたって、日本人はいかなることも起こしても武器を取るべきでないとの教育を
もつとも強く受けたのは、防衛の任に先ずつかねばならない青少年であった。

質問 講和条約および日米安全保障条約の締結は、国際社会における日本の立場をどのような
ものにしたか。

質問 国際社会への復帰の過程を学んでの意見・感想をまとめろ。

今日の理解度 5 4 3 2 1
教員からのフィードバック

氏名

2 第2分科会 内容「中東地域およびイスラームの理解と日本社会との関わり」

(1) 内容設定の理由

今日、交通手段の発達や情報化が推進される中、政治・経済・社会・文化等様々な面で国際化が進み、国際的な相互依存関係はますます深まりつつある。そして、資源・エネルギー・食糧・環境・紛争・難民等の現代の多くの課題も一つの国家、一つの地域という限定された範囲で論じられる問題ではなくなっている。国際社会の動向は、直接的・間接的に、また短時間のうちに私たちの生活に様々な影響を及ぼしている。

生徒の日常においても、異なる文化を背景にもつ人々を隣人として生活をし、様々な国や地域から入ってくる大量の物資・情報を消費する生活が現実のものとなっている。

こういった中、生徒は国際化が進む社会について正確な知識をもち、自らのこととして認識をもっているのだろうか。自分たちが日常に手にする様々な商品を単なる物質としてしかとらえず、その背景やそれにつながる人々にまでは思い至らないのが現実であろう。また、自分自身のことやそれに近いところの事象には興味・関心を示すが、人間関係の広がりが縮小し、関係そのものも希薄になりつつあるといわれる状況の中で、社会一般・社会情勢に問題意識をもつことも少なくなっている。しかし、生徒がこれからの社会を生きていく上でグローバルな視野をもつこと、特に地理的・意識的に遠いと感じる地域の様々な問題や課題も、基本的には生徒たちの日常生活の中での行動の在り方、消費活動と深く結び付いていることを認識することは重要である。

このような現状、視点に立ち、第2分科会では「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」を研究内容として設定した。

「中東」や「イスラーム」については、生徒をはじめ私たちは、「アメリカ同時多発テロ事件」以降のアフガニスタン情勢や「イラク戦争」等がマス・メディアにおいて報道されることによって、情報や知識を得ることが多くなっている。しかし、報道の多くは、マス・メディアの性格上やむを得ないことであるが、テロリズムや戦争といった文脈で語られるため、私たちのもつイメージはあまりよいものではないことが多い。また、「中東」は相対的に東アジアや東南アジアの近隣諸国と比べ、我が国と歴史的に関わりをもったことも少なく、地理的にも遠いことから、その知識やイメージはマス・メディア等によるステレオタイプで語られることもある。しかし、現在、「中東」は日本で消費する石油のかなりの部分を担っており、日本からも多くの工業製品が輸出されている。また、日本は、イラク戦争後の復興に多大な役割を果たすよう国際社会から期待を寄せられている。さらに、「イスラーム」文化を背景にもつ人々が日本で多く生活するようになり、生徒の日常生活と接点をもつことも見られるようになってきた。こういった状況を踏まえ「中東」や「イスラーム」と日本社会との関わりを考えていく中で、生徒が異文化を理解していく態度を身に付け、現代社会を生きる当事者としての意識をもち、情報を的確にとらえ発信できる能力を身に付けることができるような指導方法、教材、評価方法を研究した。

（２）研究内容与方法

第２分科会は、「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」を研究内容として、８時間構成の指導計画を設定した。

第１・２時では、アンケートにより生徒のもっている知識等を確認し、中東地域の地理的特徴をその共通性と多様性といった観点から基本的事項を学習させた。第３・４時では、現代の中東情勢の理解に必要な歴史的背景についての基本事項を、帝国主義時代から第二次世界大戦後のパレスチナをめぐる国際社会の動向を中心に学習させた。そして、第５～８時については、ここまでの中東地域における地理・歴史的事項の学習を踏まえ、日本社会との関わりといった観点から生徒が日常生活の中で自らの問題として考えられるような学習を設定した。第５・６時では、現代の中東情勢に関わる諸問題、そして日本の国際貢献の在り方について考えさせた。また、第７・８時では、イスラームについて日本社会との関わりの中で学習することにより、異文化理解の在り方について考えさせた。

評価については、ワークシートの分析や授業態度の観察などとともに、それぞれの学習の段階において、自己評価用紙等により生徒の学習の状況を把握した。その上で適切な助言を行うことにより興味・関心の持続を図り、かつより効果的な学習事項の定着を図るべく指導と評価の一体化を工夫した。

なお、指導計画は、高等学校学習指導要領公民編の、第２章第１節現代社会「２ 内容とその取扱い（２）現代の社会と人間としての在り方生き方」の中項目「エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割」に位置付けて実施した。

また第１・２時は、高等学校学習指導要領地理歴史編の第２章第５節地理Ａ「２ 内容とその取扱い（２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題」の「ア 世界の生活・文化の地理的考察（ア）諸地域の生活・文化と環境」に、第３・４時は同第２章第１節世界史Ａ「２ 内容とその取扱い（３）現代の世界と日本」に位置付けることができる。

【指導計画案】

	学習項目	具体的な学習内容・学習活動	指導上の留意点
第 １ ・ ２ 時	・ 中東地域の 共通性と多 様性	・ 地図帳と白地図を用いて作業 学習により中東地域の位置や 国名などを確認する。 ・ 中東地域の地理的特徴につい て共通性と多様性といった観 点から理解する。	・ ヨーロッパ中心の世界地図を補 助的に用いて「中東」という用 語の意味を考えさせる。 ・ 中東地域の気候や地形などが多 様であることや日本との関わり について気付かせる
第 ３ ・ ４ 時	・ 中東地域の 歴史的背景	・ 中東で起きている紛争を取り あげ、争点を考える。 ・ 資料や史料を読み取り、中東	・ 紛争の内容を正確に理解すると 同時に争点について、推察で きるような適切な情報を選んで紹 介する。 ・ ヨーロッパ諸国の影響を強く受

第 3 ・ 4 時		<p>紛争にかかわったヨーロッパ諸国の存在と介入の理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中東戦争と日本社会との関わりについて考える。 	<p>けていることを理解させ、アラブ人やユダヤ人の立場、主張を考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分との関わりに気付かせる
第 5 ・ 6 時	・中東情勢と日本との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・「アメリカ同時多発テロ事件」「アフガニスタン空爆」、「イラク戦争」などの社会事象を確認する。 ・中東情勢と日本との関わりについて理解する。 ・国際社会における日本の役割と責任から、国際情勢を自らの問題として考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中東情勢が、自分自身と関連があるという意識を高める。 ・世界の中の日本の役割をその中で一人一人ができることについて考えさせる。
第 7 ・ 8 時	・イスラームと日本社会	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームの宗教的実践の内容、意味をまとめる。 ・異文化の受け入れが問題となる事例について、自分の考えをまとめる。 ・日本社会が異文化をどのように受け入れていくべきなのか自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本との違いについてもまとめることによって、日本の文化の特性についても考えさせる。 ・他者への説明という形式をとることによって、自分の考えを的確に表現する力を養う。 ・自分自身も関わり合う問題であるとの意識を高める。

(3) 学習指導案

第1・2時 中東地域の共通性と多様性

ア 本時のねらい

本時は「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」の第1・2時にあたり、中東地域の地理的特徴を、その共通性と多様性といった観点から理解させることによって「ステレオタイプ」でない異文化理解を考えさせる。また、基礎・基本的内容を中心に指導を行い、身近な生活上の話題や日本との関係を取りあげることによって興味・関心を高め、全体の導入部としての役割も果たす。

イ 本時の展開

	学習事項	学習活動	指導上の留意点と評価
導入	・ 中東・イスラームについてのイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の前に、中東・イスラームについてのイメージや知っていることをアンケート用紙に記入する。 ・ アンケート結果を発表する。 ・ 自らのイメージと他の生徒のイメージとを比較する。 ・ 中東地域の人々の日本に対するイメージを考える。 ・ 日本と関連のある中東・イスラームの実物教材を見、説明を聞くことにより興味・関心をふくらませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけたくさん、また、その情報源についても書かせ、その集計結果をまとめておく。 ・ 何人かの生徒に発表させる。 ・ アンケート結果から最近の中東関連の事件に触れる。 ・ 共通性を示唆する。 ・ 外国人の日本に対するイメージを提示し、多様なことを理解させる。 ・ 例えば、ナツメヤシ、石油の見本を示したり、日本のTV番組が現地で放映され人気を得ていること等を紹介する。 <p>【関意態】中東地域に関心をもつ。</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中東の位置 ・ 中東地域の地理的特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳を見て白地図に作業を行う。 ・ 白地図を見てなぜこの地域が「中東」と呼ばれるのかを考える。 ・ 白地図と地図帳等を用いて中東地域の地理的特徴を、その共通性と多様性といった観点 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導を行い助言を与える。 ・ 白地図は中東地域を拡大したものを使い、ヨーロッパ中心の世界地図は補助的に用いる。 ・ 「中東」という地域名がヨーロッパからの見方であり政治性をもったものであるということとともに、「中東」という名称でまとめられることによる共通性があることを理解させる。 ・ 白地図や地図帳を使用して身近な生活上の話題を取り上げながら考えさせ、板書等で理解させる。ア

展 開	<p>から以下のことについて考え、理解する。</p> <p>1 自然、生活</p> <p>2 様々な民族</p> <p>3 様々な宗教</p> <p>・ 白地図、地図帳を用いて油田の分布を理解する</p> <p>・ 中東地域と日本の関わり</p>	<p>から以下のことについて考え、理解する。</p> <p>1 自然、生活</p> <p>2 様々な民族</p> <p>3 様々な宗教</p> <p>・ グラフから日本が中東諸国に多くの原油を依存していることを理解する。</p> <p>・ シリアとトルコの生活についてビデオを視聴する。()</p>	<p>ンケート結果や中東という名称でまとめられた共通性とともにも多様な面を理解させる。</p> <p>・ 基本的に乾燥気候であるが砂漠ばかりでないことを認識させる。東京と中東各地の気温・降水量表を比較し、日本と中東、及び各地の違いを理解させる。</p> <p>・ 言語の観点から民族を分類していることを簡単に説明する。その際、日本と近隣諸国(韓国・北朝鮮・中国等)との関係を比較に説明する。</p> <p>・ 中東がイスラームだけでなくキリスト教やユダヤ教の発祥地であり、その信者も生活していることを理解させる。国により差はあるがイスラームが多数派であることも確認させる。</p> <p>・ 原油産出地域が偏っていることも理解させる。</p> <p>・ 日本から多くの工業製品が輸出されていることにも触れる。</p> <p>・ 日本との関わりに注意させる。</p> <p>【技表】資料を使い地理的特徴を把握する。</p>
ま と め	<p>・ 本時のまとめ</p>	<p>・ 指導前のイメージや知識と比べて、中東地域の共通性と多様性という観点からどのようなことを新たに知ったかをワークシートにまとめる。</p>	<p>【知理】中東地域の多様性を理解する。</p> <p>・ 授業内容を振り返りまとめさせる。</p> <p>・ 次回の授業の内容を説明し、パレスチナ紛争について簡単に説明し新聞等を活用した事実確認を促す。</p>

注：「JICA 5分でわかるシリーズ」(エジプト・シリア・トルコ・モロッコ編がある。)

第3・4時 中東地域の歴史的背景

ア 本時のねらい

本時は「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」の第3・4時にあたり、中東地域の理解に必要な歴史的背景についての基本事項を学習する。パレスチナでは住民が帝国主義時代列強の意図に翻弄され第二次世界大戦後にも欧米諸国外交の影響を強く受け、宗教の違い、民族の違いが対立として表面化するようになった。このことを理解させ、パレスチナに起きている問題を石油戦略で世界に大きな影響を与えるようになった周囲のアラブ諸国の動きとともに中東地域が抱える国際問題の一つと位置付け、その歴史的背景を知り、問題の理解を深めさせ正確な知識を習得させる。

イ 本時の展開

	学習事項	学習活動	指導上の留意点と評価
導 入	・ 前時の復習	・ 中東地域の国名を確認する。 ・ 地域紛争の絶えない地域であることを確認し、争点は何か考える。	・ 作業をした白地図および地図帳を利用する。 ・ パレスチナでのアラブとユダヤの対立に着目できるよう注意させる。 【関意態】パレスチナ情勢に関心をもつ。
展 開	・ 第一次世界大戦中のイギリス戦時外交	・ エルサレムの宗教的に複雑な歴史を理解する。 ・ イギリスの第一次世界大戦中の矛盾する外交政策(フセイン＝マクマホン協定、サイクス＝ピコ協定、バルフォア宣言)について資料の読み取る。	・ ユダヤ教、キリスト教、イスラームの聖地であるエルサレムがイスラエルにあることに気付かせる。 ・ 世界一の工業力を持つイギリスも第一次世界大戦が長期化し様々な援助を求めていることに注意させる。 ・ アラブ人の立場でイギリス外交の矛盾について評価させる。 ・ 背景となっているシオニズムについても理解させる。 ・ 資料の音読なども取り入れ、的確な読み取りを促す。
	・ 第一次世界大戦後、第二次世界大戦後のパレスチナ	・ イギリス委任統治の状況を地図とグラフで読み取り、ユダヤ人がパレスチナに大量に移民したことを確認し、第一次世界大戦後にパレスチナへのユダヤ人移住が加速された背景を考える。	・ ナチスのユダヤ人迫害政策によりヨーロッパからパレスチナへの移住が加速されることを確認させる。

展 開	・ 中東戦争（第 1 次から第 4 次）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次世界大戦後の国際連合によるパレスチナ分割案（1947年）の概要を理解し関係諸国の賛否を考える。 ・ イスラエルの建国と周辺アラブ国との対立、戦争とアラブ諸国の石油戦略について白地図の作業と確認する。 ・ 第 4 次中東戦争と日本の関わりについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分割案成立に果たしたアメリカの役割に注目し、国連での反対票などから、イスラエルとアラブ諸国の対立が予測できるよう留意する。 ・ 第 1 次～第 3 次中東戦争までのイスラエルの占領地域拡大を白地図の作業で認識させパレスチナ難民発生の原因を気付かせる。 ・ 石油戦略に気付かせ、身近な資源問題として考えさせる。 <p>【技表】資料を活用し歴史的变化の特徴をまとめる。</p> <p>【知理】紛争の背景を理解する。</p>
ま と め	・ 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時で学習した中東の歴史について理解したことや疑問に思ったことを整理し、考えをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パレスチナ和平への課題を確認させる。 ・ 次回の授業について説明し、新聞等の資料の紹介を行う。

第 5 ・ 6 時 中東情勢と日本との関わり

ア．本時のねらい

本時は、「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」の第 5 ・ 6 時にあたる。第 1 ・ 2 時の中東地域の地理的特徴の学習や第 3 ・ 4 時の歴史的背景の学習で習得した知識を生かし、第 5 ・ 6 時では「アメリカ同時多発テロ事件」などの現在の中東地域関連の社会事象を考察する。中東地域での社会的な事象と日本との関わりについて学習することで、国際社会における日本の役割を考え、日本と中東地域との関係について理解と関心を深める。

イ．本時の展開

	学習事項	学習活動	指導上の留意点と評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の復習 ・ 「アメリカ同時多発テロ事件」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中東地域の地理的位置、歴史的背景を確認する。 ・ テロの状況とその影響について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界貿易センタービルと米国防総省等に対する攻撃について資料で確認する。
展 開	・ 現在の中東地域の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イラク戦争」までのアフガニスタンやイラクの歴史を学び、その経緯と背景を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料で概要を説明する。 ・ 複雑な国際関係が背景にあることに焦点を当て、細かい事象には深入りしない。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イラク戦争」までの日本の対応について学び、日本との関わりを理解する。 ・ 「イラク戦争」の開戦について、各国と国連、それぞれの対応の違いを理解する。 ・ P K Oの歴史について学びイラク特別措置法等による日本の対中東政策について考える。 ・ 国際機関やN G O等を通じての日本の活動から、人道的な復興支援のあり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3・4時で学習した欧米諸国の動向などとも関連があることに気付かせる。 ・ 湾岸戦争での日本の資金援助と国際社会の反応について説明する。 ・ アフガニスタンの復興支援会議開催や難民救援活動について日本の対応を説明する。 ・ 湾岸戦争での多国籍軍と「イラク戦争」の米英軍との違いを説明する。 ・ イラク特別措置法は、多国籍軍への参加を可能にする点でそれまでの法律とは異なることを説明する。 <p>【思判】国際社会における日本の役割を考える。</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中東地域での日本が果たす役割について ・ 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中東地域の情勢が様々な要素によって動いていることを理解し、国際社会において日本がどのような役割を果たしていくべきか考察する。 ・ 中東情勢について理解したことや疑問点を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の社会が、政治や経済、安全保障の面で国際的に相互依存の関係にあることに気付かせ、「日本の対応」を学習することで「自分に何ができるか」という視点をもつよう働きかける。 <p>【知理】国際情勢の複雑さと日本の対応について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の授業について説明し、宗教について自分の考えをまとめておくように指示する。

第7・8時 イスラームと日本社会

ア 本時のねらい

本時は、「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」の第7・8時にあたり、イスラームと日本社会という視点から、イスラームに対する理解を深めるとともに、広く異文化を受け入れるためにはどのようなことが必要なのかを学ぶ。前時までの学習を踏まえ、イスラームの宗教的な側面のみならず、その風土や歴史と深く結び付いた生活文化的な側面にも注意を払い、宗教が社会生活の中で果たす役割についても考えさせる。あわせて、日本人の宗教に対する考えと比較することによって、我が国の文化の特性についても考えるきっかけとする。

イ 本時の展開

	学習事項	学習活動	指導上の留意点と評価
導入	・宗教としてのイスラーム	・他の宗教(キリスト教、仏教等)との比較で、イスラームがどのような特徴をもつのかまとめる。	・資料集を参考にイスラーム特有と思われる1日5回の礼拝や断食などについてあげる。
展開	・礼拝	・ムスリムにとって礼拝がどのような意味をもつのか、日本人の宗教観との違いも併せて考える。	・礼拝の場所・時間等柔軟性があること、健康管理や衛生面でも意味があることに言及する。
	・日本での「祈りの場」の確保	・日本社会でムスリムが礼拝を行なうに際して、時間や場所などの面でどのような困難に直面するのか考える。	・私たちの身近(代々木、浅草、お花茶屋等)にもモスクが存在していることを指摘する。
	・食事、断食	・ムスリムにとって禁忌とされている食品はどのようなものか、また断食について学ぶ。 ・日本にある、外食のメニュー、加工食品の多くが禁忌とされていることから、どのような苦労があるのか考える。	・断食はイスラーム特有のものではなく、気候や文化等の背景があることに言及する。 ・資料集の「ハラール・リスト」をみせ、具体的に考えさせる。 【技表】資料からイスラームの特徴を読みとる。
	・「男の世界」と「女の世界」女性の服装	・男女の生活空間が分けられるべきという考え方から、女性の服装や結婚に関するきまりを学ぶ。	・男女平等に逆行するようなこの制度の中でも女性の利益が守られている側面について気付かせる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人ムスリムと日本人女性との結婚 ・異文化の受け入れと日本の社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人男性ムスリムと日本人女性との結婚が増え、結婚生活の中で生じる問題について考える。 ・ムスリムたちが自分たちの生活様式を守ることについて、日本の社会が受け入れていくことについて具体的事例に即して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の生活空間を厳格に分けるイスラームの結婚観が日本社会でどのような問題を引き起こすか考えさせる。 ・生徒自身が問題の当事者になった場合を想定してどのような対応をするべきなのか考えさせる。 ・同じムスリムであっても宗教的実践に対する態度について一様でないことを指摘する。 <p>【関意態】イスラーム文化の理解を自分の課題として理解する。</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活でのイスラーム ・本時及び「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・神への信仰という面にとどまらず人間の日常生活を規律しようとするイスラームが何をめざしているのか考える。 ・異文化を理解し、それを受け入れていくには、どのようなことが必要となるのか、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームがどのような価値観、人間観に立っているのか考えさせ、社会生活の中での役割について確認する。 ・お互いの違いを理解した上で、共感できることや文化の類似する点についても考えさせる。 <p>【思判】異文化理解について自分の考えをまとめる。</p>

(4) 評価

評価の在り方

第2分科会では、それぞれの学習段階におけるねらい及び授業内容を分析し、それぞれの授業の中で評価の4観点（ア：関心・意欲・態度 イ：思考・判断 ウ：技能・表現 エ：知識・理解）のどの観点に関する評価を行うか予め定め、生徒の目標に対する実現状況を明らかにする評価方法を考えた。また、評価結果が次の指導に結び付くように、それぞれの学習段階の最後にワークシートの中で生徒自身に授業内容の理解度を振り返らせ、その記入内容を分析した。そして、このことから、生徒の学習状況を把握するとともに、適切な助言・指導を行うことにより興味・関心を持続させ、本学習内容を継続的かつ効果的に学ばせることができるようにした。このような考え方にに基づき、以下のような評価規準と評価計画を作成した。

評価規準と評価計画

第2分科会では、「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」の評価規準と評価計画を作成し、下記のとおり一覧表にしてア～エの4観点の評価計画を作成した。

【評価規準と評価計画表】

観 点	ア 社会的事象 への関心・意欲 ・態度	イ 社会的な思 考・判断	ウ 資料活用の技 能・表現	エ 社会的事象 への知識・理解	評価方法
第 1 ・ 2 時	・中東地域に関 心をもとうと している。		・地図帳やグラフ を用いて白地図 等の作業を行い てそこから地理 的特徴を見出し ている。	・中東地域の共 通性と多様性 について理解 している。	・アンケートへ の記入内容の 分析 ・白地図、ワー クシートへの 取り組みの観 察と記入内容 の分析
第 3 ・ 4 時	・パレスチナの 人々の状況を 想像し、その 歴史について 関心をもとう としている。		・グラフの資料や 地図を的確に読 みとり、歴史的 な変化を適切な 言葉で表現して いる。	・パレスチナで の紛争の争点 と、背景にあ る諸国の動き を理解してい る。	・発問に対する 回答内容の観 察 ・自己評価票へ の記入内容の 分析
第 5 ・ 6 時		・中東情勢を考 察し、国際社 会における日 本の役割を自 らの問題とし て考える。		・中東情勢の背 景に複雑な国 際関係がある ことや中東情 勢に対する日 本の対応を理	

				解している。	
第 7 ・ 8 時	・異文化の受け入れを自分たちの課題として受け止めようとしている。	・異文化をどのように受け入れていくべきか、自分の考えをもっている。	・資料からイスラームの特徴について読み取っている。		

研究仮説の検証

本分科会でも、第1分科会同様、生徒の自己理解度についてワークシートで毎回確認を行い、授業の感想を記入させた（33～36頁ワークシート参照）。イスラーム及び中東地域についての関心は、様々な宗教上の習慣や石油貿易等といった断片的な情報によることが多いが、国際情勢に影響を受けた典型的な地域である点や生徒がニュース性を感じられる点からも本仮説を検討する内容設定としては、適切であったと考えている。とくに19世紀以降、地域外の勢力（国）の意向に左右され、国際情勢の変化に翻弄されてきた歴史的経過については、生徒もその解決が単純なものではないことに気付くことができた。状況資料や統計を読み取ることで、生徒も論評に左右されず自分の判断で考えをもつようになった。生徒が理解を増すとともに、このような情勢に対しどのようなことが大切なのか、何にをなすべきか、について積極的な意見をもつようになった点からも、本研究仮説が正しいことを示唆している。今後は、教員が生徒の理解を的確に把握するシステムに発展させていく必要がある。

〔第2分科会 ワークシート1〕 中東地域の共通性と多様性

A 「中東」とは、どのあたりのことをさしているのだろうか。

東はアフリカ、西はアフリカ大陸の()から、南はサウジアラビアなどの()半島、アフリカ大陸の()まで。北は()砂漠以北の国々まで。いわゆる西アジアと北アフリカに当たる地域。



現在では、ほぼ上記の地域を「中東」と呼んでいる。
問い：なぜ「中東」と呼ばれるようになったのだろうか。(この地域は、どこから見て「中東」の方向にあるだろうか。)

B 中東地域の地理的特徴について、以下の問1～6に白地図や地図帳を見て考え、答えなさい。

問1 アフリカ大陸北部に広がる()砂漠や()半島のネフド砂漠やルプアルハリー砂漠などの存在からわかるように中東地域の広い範囲が()気候となっている。

問2 右の東京と主な中東地域の都市の月平均気温・降水量の表によると、東京の年降水量はカイロの()倍である。

問3 乾燥した地域の多い中東においては、古くからの人々の主な生活の場は、スーダン、エジプトを南北に貫き地中海に注ぐ()川やトルコ中央部からイラクを流れペルシア湾に注ぐ()川などの河川流域、そして、地下水を利用できる砂漠の()である。現在でもこういった地域では河川水や地下水を利用して()や野菜、小麦等の農産物が生産されている。また、中東は、古くからの東西文明の交流の場であり、人々が商業活動や軍事的目的等のため往来し、河川流域や海岸部、オアシスに集落や市場、軍事拠点を形成してきた。現在では、エジプトの()やイラクの()などの大都市も発達している。一方、羊や山羊、ラクダ等の家畜とともに移動生活をする()民は都市などに()化の傾向にある。

問4 モロッコやアルジェリアを経て、シリア、トルコへと続く()海沿岸地域は温帯に属する()性気候が分布し、夏は高温乾燥であるが冬は温暖で降水量が多い。そのため、()やオリーブ、レモン、()などの果樹や小麦などが栽培されている。また、トルコやイラン北部、モロッコなどの高原、山岳地帯では、冬季に()も見られ、「乾燥した砂漠が果てなく広がる」ところだけが「中東」ではない。

問5 中東地域にはどのような民族が生活しているだろうか。

問6 中東地域では、どのような宗教が信仰されているだろうか。

C 中東地域と日本との関わりについて、以下の問1～4に答えなさい。

問1 地図帳、白地図の井の印は油田を示している。油田は主にどこに分布しているだろうか。

問2 右のグラフは日本の原油輸入先を示したものである。①()、②()にはペルシア(アラビア)湾に面した国のうち2つが入るが、どの国がはいっているだろうか。

問3 下の日本の原油輸入先のグラフによると、日本は中東諸国からほぼ何パーセントの原油を輸入しているだろうか。

()%

問4 トルコとシリアのビデオを見て日本とどのような関わりがあるか答えなさい。

()

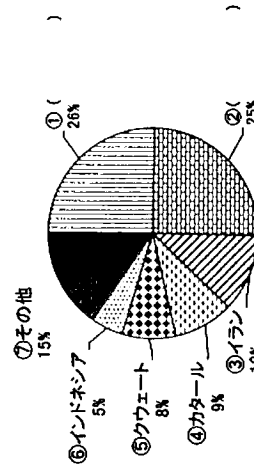
東京と主な中東地域の都市の月平均気温・降水量

(各都市の上段が気温(℃)、下段が降水量(mm)。全年については、気温は年平均、降水量は全降水量。)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
東京	5.2	5.6	8.5	14.1	18.6	21.7	25.2	27.1	23.2	17.6	12.6	7.9	15.6
	45	60	100	125	138	185	126	147	180	164	89	46	1405
カイロ	13.9	15.3	17.7	21.6	24.8	27.7	28.0	27.9	26.5	23.9	19.3	15.1	21.8
	5	3	5	2	0	0	0	0	0	1	3	5	24
カサブ	12.7	13.4	14.5	15.7	17.7	20.1	22.3	22.6	22.0	19.3	15.9	13.1	17.4
	65	57	48	38	21	6	1	1	5	32	72	80	425
ランカ	0.0	1.8	6.0	11.1	15.6	19.6	22.9	22.6	18.3	12.5	7.5	2.3	11.7
	47	36	36	48	55	37	14	12	19	27	33	49	414

(「1999 年理科年表」から作成)

日本の原油輸入先(2000年)



(「データブックオブザワールド2002」から作成)

D アンケート時のイメージや知識と比べて、中東地域の共通性と多様性、日本との関わりといった観点から新たに知ったことや感じたことを書いてください。

今日の理解度 5 4 3 2 1
教員からのアドバイス

氏名

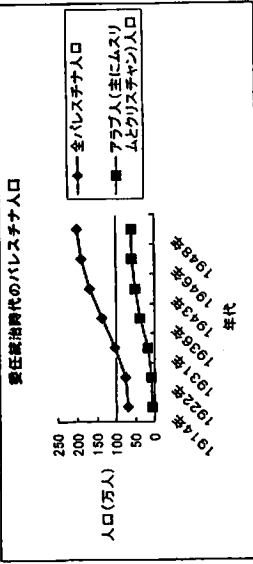
1. (年)
 (月)
 ()
 に対してパレスチナ
 での ()
 を約束する

() に対してパレスチナで
戦後英の優先権を約束する

3. ()
 ()
 ()

レスナにユダヤ民族の
建設を約束する

B 下のグラフをみながら、文章の空欄に当てはまる言葉を考えてみよう。



チャーン、その他の宗教の民族となる。これらの数字は、主としてイギリスのパレスチナ委任統治政府による調査や、イギリスの調査団による推計によっている。調査や推計の方法によって、多少の違いがある。ごく大まかには、委任統治開始時（1920年）のパレスチナ全人口は、約（3）万、うちユダヤ人口（4）万、終了時（1948年）のパレスチナ全人口は、約（3）万、うちユダヤ人口（4）万と考えられよう。

1947年に国連が出したバレスチナ分割提議案ではバレスチナに居住している人口の(5)分の一ほどのユダヤ人
にたいして土地の57%を与えることになっており、アラブ諸国などの反対で、採決は賛成33VS反対13、棄権10で
まとまった。この州への影響力を誇めたいアメリカの強い働きかけによりこの決議が採択された。

C 次の地図は第1次世界大戦後から第2次世界大戦後にかけてのパレスチナのうつりかわりである

第1次大戦後のパレスチナの移り変わり

①アラブ人地域を **赤** で ②ユダヤ人地域を **青** で ③委任統治領を **黄色** で ④国際管理地域を **緑** で

それぞれ着色してみよう。下の参考資料を見ながら次第に減ってゆくのはどんな地域か考えよう。

《参考資料》 第二次世界大戦後のパレスチナ分割制》

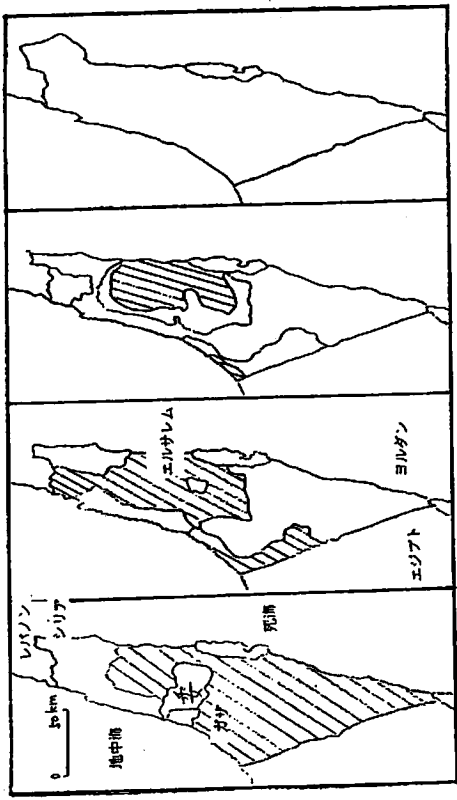
《参考資料》	1947年	1948年～第1次 中東戦争	1967年第3次中東戦争の直後は、パレス チナ全境を入手
イスラエル《ユダヤ人の国家》	56% 国連決議	77% (この時点で 人口100万)	100% (人口230万)
アラブ人の地域	43%	22%	
聖地イエルサレム	1%	東西分割《1973年4月 と1975年による》	

年号	原因	結果・影響
第1次中東戦争（パレスチナ戦争） 1948～49	イスラエル建国宣言	イスラエルの勝利と領土拡大、パレスチナ難民（100万人）
第2次中東戦争（スエズ戦争） 1956～57	エジプトのイスラム化、国有化宣言	英仏の出兵に対する国際的圧力
第3次中東戦争（6日間戦争） 1967	イスラエルの新設政策	イスラエルの圧倒的圧勝と領土拡大
第4次中東戦争（10月戦争） 1973	エジプト・シリアが領土回復を目指す	アラブ産油国の石油戦略

次の地図は第1次世界大戦後から第2次世界大戦後にかけてのポレスチナのうつりかわりである。

① アラブ人地域を **赤** で ② ニダヤ人地域を **青** で ③ 委任統治領を **黄色** で ④ 国際管理地域を **緑** で

それぞれ着色してみよう。



1937年	1947年	1948年	1967年	第三次中東戦争
	国連分割決議	第一次中東戦争		
		での占領拡大		での占領拡大

中東地域の歴史的背景を学んでわかったこと、考えたことを書いて下さい。

今日の理解度 5 4 3 2 1
教員からのアドバイス

氏名

A. アメリカ同時多発テロ事件

2001年9月11日、ニューヨークの世界貿易センタービルに民間航空機2機が相次いで激突。2機は倒壊した。ワシントン郊外の米国防総省乗客ターミナルに1機が墜落した。乗取り方はアラブ系乗客19人で、イスラーム原理主義組織アル・カーイダの指導者、オサマ・ビン・ラーディン氏を「最重要容疑者」と断定。「犯人とそれをかくまう国々」への報復を言明した。

B. アフガニスタン

1973 軍事クーデターにより、王制廃止。アフガニスタン共和国成立
1979 (ム)軍、アフガニスタン侵攻(～1989)→軍事介入に対する西側諸国の強い反発
1982 ムジャヒディーン(イスラム型戦士)政権成立
1994 内戦の激化、()の出現
1996 ()、アフガニスタンへ。タリバーン、首都カブール制圧
2001.3 タリバーン、()の巨大石仏破壊→イスラームの偶像崇拜禁止を理由とする
2001.10.7 米英軍、軍事作戦開始
12 タリバーン政権崩壊
2002.1 アフガニスタン復興会議を東京で開催、アフガニスタン移行行政権発足
()、大統領に就任

C. イラク

1932	ハーシム家のフアaisalを王とする王国として独立→イギリスの委任統治終了
1958	共和制革命、イラク共和国成立
1968	バクル將軍のクーデター、バアス党政権樹立→1970年代、石油危機により石油収入急増
1979	イラン革命、イスラーム政権による反米政策へ (イラク大統領に就任(～2003))
1980	イラン・イラク戦争(1988に停戦)→アメリカ、イラクを支援 戦後、イラク経済悪化
1990	イラク、クウェート侵攻・制圧
1991	(湾岸戦争) 開戦
	→戦後、国際連合によるイラクへの経済制裁
	貿易の停止と物資不足、生活環境悪化、国際連合による武器査察活動
2002. 1	(イラク大統領(米)、保有疑惑を根拠としたイラク侵攻開始。
2003. 3. 20	米英軍、(イラク大統領(米)、戦間終結宣言
2003. 5. 1	ブッシュ、(イラク大統領(米)、北朝鮮を()と非難

ID. 日本との関わり

■自衛隊の主な海外派遣■		(期間)		(主な活動内容)	
ベル	パキスタン	1991年4月	～10月	機雷掃海	
カン	ボツワナ	1992年9月	～93年2月	停戦監視	
モザ	ンビクワ	1993年5月	～95年2月	人員医療、給水	道路修復 資輸送
ルワン	ダニヤ	1994年9月	～12月	人員医療、輸送	
ゴラン	ジュラ	1996年2月	～12月	人員医療、防疫	
ホ	ンジュ	1998年11月	～12月	人員医療、輸送	
	国際緊急援助	1999年11月	～12月	人員医療、輸送	
	国際緊急援助	1999年9月	～11月	人員医療、輸送	
	国際緊急援助	1999年11月	～2000年2月	人員医療、輸送	
トルコ	国際緊急援助	2001年2月	～	人員医療、輸送	
東ティモ	ルデ	2001年11月	～	人員医療、輸送	
インド	ネパール	2001年11月	～	人員医療、輸送	
アフガニ	スタン	2001年11月	～	人員医療、輸送	
インドネ	シア	2002年2月	～	人員医療、輸送	
東ティモ	ルデ	2002年2月	～	人員医療、輸送	

問 1 アフガニスタンの復興に際して、日本が行った援助にはどのようなものがあるかまとめなさい。

問2 イラク戦争の開戦について、イギリス、フランス、国際連合、日本はそれぞれどのような対応をしたか。

【イギリス】

【フランス】

【國際聯合】

「日本」

問3 日本のPKO関連の法律について、それぞれの特徴をまとめなさい。

【PKO協力法】()年成立

1. 目的
2. 活動内容
3. 活動区域

【周辺事務法】()年成立

1. 目的
2. 活動内容
3. 活動区域

【対横濱措置法】()年成立

【イラク特別措置法】（ ）年成立

問4 日本の国際貢献の在り方について、考えたい。

問5 授業を受けて、わかったことや気が付いたこと、考えたことや疑問点などを書きなさい。

今日の理解度	5	4	3	2	1
教員からのアドバイス					

知出

A、ムスリムの生活様式・宗教的実践について、次の表に記入してまとめましょう。

	どのような内容か	どのような意味があるのか (社会生活上のメリット)	日本では？
礼拝			
食べ物の タブー			
断食			
男女の 生活空間 の分離			
喜捨			

B、ある公立の中学校では、ムスリムの女子生徒に対して教室内でのヴェールの着用を認めていました。同じ学校の中で、バンダナをつけて授業を受けていた生徒が指導されたところ、その生徒の保護者から「一部の生徒だけ特別扱いするのはおかしい。」との指摘が寄せられました。あなたがもし学校関係者の立場であったら、その保護者に対してどのような説明をして理解を求めますか。

C、イスラームをはじめとする異文化を、日本社会はどの程度まで受け入れていったほうがよいでしょうか。あなたの考えを書いてください。

今日の理解度 5 4 3 2 1
 教員からのアドバイス

氏名

(5) 授業実施後の考察

【A高校の場合】(代表例)

A高校は、全日制と定時制とを併置しており、全日制普通科の生徒の大半は進学を希望している。今回の検証授業は、3学年選択「世界史B(4単位)」の授業の中で実施した。通常の授業形態は、教科書・資料集・授業プリントを用いて講義、及び演習形式で行っている。ここでは、代表例として第1分科会「近代日本外交」第2時の検証授業について考察をしてみる。

「近代日本外交」というテーマは、日本史だけでなく世界史の視点から考察することが必要になる点からも適切であると考えた。

第2時「日露戦争前夜から条約改正まで」の内容を、当初作成した指導案に基づいて実施した結果、次のような結果が導かれた。

まず導入部分の安政五ヶ国条約以降、第一次条約改正までの基本的な知識は、大半の生徒があらかじめ有しており、節目における担当外務大臣たちの名は即答できていた。

次に展開部分であるが、やはりここで一番生徒の印象に残ったのが、例として挙げた八代六郎の対欧州分析と、小村寿太郎の外交姿勢の部分であった。ワークシートに記された生徒の感想のいくつかを、以下に列挙する。

〔八代六郎の対欧州分析に関する感想〕

- ・インターネットもない時代に、これほど正確に国際情勢を知り、優れた分析能力をもつ日本人がいたということから、当時の日本人が欧米と対等に渡り合いたかったという熱意が伝わってくる。欧米に対し、卑屈になったり媚びたりしていないところがすごい。
- ・過去の歴史を知りつつ、多角的に各国を見据えられるこのような人物が、現代の日本にもまた現れてほしいと思う。
- ・明治期の日本は、欧米列強諸国に飲み込まれるかもしれないという恐怖心と対峙していたのではないだろうか。日本を守る最も良い方法は、練られた外交政策だと思う。
- ・八代のように、時代を正確に見つめることのできる人物がトップに立っていたからこそ、この時代の日本は急成長を遂げることができたのだと思う。留学等の機会も遙かに増え、より良い教育を受ける者が増えたはずの現代において、スムーズな外交が行われにくいのは「傑物」の声が上に届かないからではないだろうか。
- ・「日本はまだまだ後進国であり、欧米に追いつけ」という意識が強かったためか、今の日本人よりも何倍も外国に対する関心や意欲が高い。今の日本は、何よりもまずこのように諸外国の状況をきちんと学ぶべきだと思う。

〔小村寿太郎の外交姿勢に関する感想〕

- ・甘い考えかもしれないが、外交もやはり人と人との間で行われるのだから、正直さは大切。
- ・ある国が外交で嘘を付いたら、後でその国の信用を落とすことになる。正直が一番。
- ・目先の利益を考えると、嘘を付いて外交を行った方が得にも思えるが、最終的にはきちんとした信頼関係を築いていく正直な外交が一番良いと思う。
- ・正直さとは、人と接する時の基本。その基本を外交という大舞台でも忘れなかった小村は立派だと思う。自分に対してまず誠実だったのだろう。

- ・正直さだけの外交は理想的だが、現実には相手との駆け引きも必要。しかし、あまりにも汚い嘘には賛成しかねる。
- ・正直さを貫くということは、自国の手の内をある程度見せるということにもつながる。人を欺くよりも有言実行の方が実際には大変だと思う。しかし、それを貫くことができれば諸外国からも国民からも信頼が得られ、スムーズな外交ができると思う。

以上、これら一連の考えから、「この時代の日本政府は、優秀な人材を育ててうまく活用する能力がとても高く、国際関係の把握や分析にも秀でていた」という内容が導き出された。そして、今の日本の外交を含む国際関係を理解・把握するには、何が必要か、あるいは何が不足しているかを生徒自身が真剣に考える土台が築かれたと思う。

なお、本日の授業の理解度が各自どの程度であったか、というワークシート末尾の5段階評価は、25人中24人が「5」、1人が「4」と答えていた。予備知識もさることながら、明治期の日本外交に、少なからぬ関心をもったことがうかがわれる。

最後に、第5時終了後に記す生徒各自の自己評価票に関するデータのうち、「あなたが外交に関わる人（外交官）だったら、たとえば「北朝鮮問題（核問題・拉致被害者など）」についてどのように取り組んでいこうと考えるか、尋ねたところ「拉致被害者や、その家族の気持ちを第一に考えて、外交を進めるべきである」「核問題に関しても拉致被害者の件に関しても、日本は今以上に積極的に外交を展開するべきである。過去において、日本はこれらの問題をうやむやにしてきたが、それでは駄目」「過去において日本が朝鮮半島の人々に行った過ちに対しては謝罪をし、日本政府は誠意をもって対処することが大切（この意見はかなり多数を占めた。正直で誠実な外交が大切だ」等の多様な視点をもった意見が積極的に出された。

生徒の意見は、概して今後は積極的に国際情勢に対応していくことが大切である、という意見であった。ただ一過性の意見に終わらせず、実社会において通用し実践できるものにしていくためには、この授業にとどまるのではなく、自らの意志で資料・新聞等を幅広く探究し、自分自身の考えを補強または修正していく学びが必要である。したがって本研究の積み上げとして、生徒自らがこの授業で学んだ手法を使ってより専門性の高い、たとえば社会学的な視点を取り込んだり、他の領域で学んだものを援用する等によって、自分の考えを確立していくシステムの開発が必要になってくるものと考えている。

まとめ

1 第1分科会「近代日本外交」

第1分科会のメンバーは、研究主題にふさわしいテーマを模索する中で、内容(1)設定理由にも記した「日本人が国際社会で主体的に行動できる姿勢を育成することが重要である」との考えを共有するに至った。明治維新以降からこの方、日本外交が積極的に方針をうち立て実績を残してきた時期とそのアイデンティティを探ることによって、現在の日本外交に不足しているものを見いだすことができると考え、それらを生徒自身が主体的な学習活動を行うことによって「諸問題の解決に向けて自らが主体的に判断し行動できる能力や態度を育成する」ことができると考え研究主題を設定した。

我々はこの主題をテーマ史的に取り扱い、これに基づいて実際に授業を実施してみた結果、多くの生徒はこの内容に深い興味・関心をもち、積極的な取り組みができたという自己評価を得た。それは取りも直さず、生徒たちが、主として幕末以降から現在に至る日本外交の歩みを単に理解したにとどまらず、今後の日本外交の在るべき姿や、国(人)と国(人)との結び付きに必要不可欠なものを、少なくとも自らが主体的に考え、判断しようと試みる契機になったと考えて良いと思う。

学習展開の方法は、主として下記の点を考慮した。

生徒に事前にワークシートを渡して、その中にある資料等を熟読させる

ワークシート中、熟考を要する発問に対しては、あらかじめ下調べをさせておく

授業当日は、通常よく見られる一方的な講義形式に陥らないよう、生徒に対して積極的に問いかけると同時に、生徒が自らの考えや判断を述べやすくする環境をつくる

評価規準に関しては、「社会的事象」というやや抽象的な視点を「国際関係」に絞り込んで設定し直した。そしてワークシートは、生徒個人が毎時間ごとに理解度を確認できる欄を設け、その度ごとに教員がアドバイスできるように作成し授業到達度を毎時間ごとに確認した。

また、生徒の自己評価票は、「近代日本外交」に関する5時間全ての授業が終了した時点で記入するように準備し、その中で全体を通しての自分の感想や意見をまとめる形にした。特に「あなたが外交に携わる人(外交官)だったら、どのような外交を展開するか？」という設問は生徒たちにとって新鮮なものであったらしく、各自ユニークな考えを提示してくれた。

今回の研究では、一連の資料を使って生徒自らが主体的に学び、そして自らの力で結論を導き出していくという授業、及び教材作りについて工夫を試みた。それは、生徒自身が確固たるアイデンティティを有し、それに基づいて国際社会の中で当事者意識をもって自らの考えや意見をはっきりと相手に対して発信できるという力を育むためのきっかけである。

なお、日本史における生徒による主体的な学習の取り組み方法については、今後一層、教材等について検討を重ね、資料の活用方法や可能性を追究し、実践例を積み上げていく必要がある。

2 第2分科会 「中東地域及びイスラームの理解と日本社会との関わり」

研究主題にふさわしいテーマを探し、「中東地域とイスラーム」にたどり着いた理由は2つある。一つは、学習過程で生徒に新たな発見をさせることができ、彼らが持つ偏見や曖昧な知識を見直させることができるのではないか、ということである。二つ目は、2001年9月11日の「アメリカ同時多発テロ事件」以降、多種のメディアに登場する中東地域やイスラームに関する情報が生徒にも与えられており、彼らが興味をもつ教材となると考えたことである。しかし、テーマを検討する上で、次の点にも多大な時間を割いた。それはこの地域に関しては避けて通れない、現在進行形で評価の定まらない時事問題の取り扱いについてである。教員自身がどのように正確な知識を身に付け特定の立場に偏らず生徒たちに事実を伝え、目的を達成する授業を組み立てるかという点であった。中東地域の治安は不安定で、メディアの最新ニュースのみを情報源・判断材料とせざるを得ない状況が続いている。重要な事実や評価が後からわかる可能性が高いことは承知の上でどう取り扱うかは慎重を要する問題であった。

学習方法としては、前半を地理的な学習と歴史的な背景の学習による基礎的な知識の習得にあてた。それを踏まえた上で、日本と紛争地域の関わりや自らの意見を問う学習を後半に行った。授業ではワークシートと板書を併用するなどし、生徒の学習活動も単調にならないよう工夫をした。

評価は2時間ごとに生徒の理解がどのくらいかを確認しながらワークシートなどのチェックを行うこととし、疑問点などは次の授業の最初に補うようにして少しでも多くの生徒の理解を深めるよう留意した。

授業をやってみると、時事問題に対する生徒の意欲・関心の高さに触れこのようなテーマを扱うことの大切さをあらためて教えられる結果となった。地理的な学習では「知らないことばかりなので知ることが出来て良かった」「思っていたのと違う国があった」などの感想が見られた。また歴史的背景を学んだ後では「ヨーロッパ列強の政策の問題点が理解できた」「パレスチナについての知識が全くなかったから、偏見が多かったけど、その中でも暴力に暴力を返しても何の意味もないことや、和平を本当に願っている人がいるということがわかった」などを書く生徒もいた。さらに、後半の学習では「中東地域も含め、戦争行為そのものがなくなっ欲しい。」「日々の生活で戦争について忘れてしまうことがあるのですが、こうやって授業の中で学ぶことは大切だと思った。」「バンダナを付ける意味と宗教的な理由からベールをかぶる意味は違う」などの記述から、生徒が学習した事実をもとに自らの意見を持ち得ていることがわかった。一方で学習内容が複雑で生徒自身が十分理解したと感じられていない者もあり、時間数を増やしゆっくり進めるなどの工夫が必要な場合もあるようだ。

今後の課題としては、統計資料などにより中東地域の情報を客観的に読み取らせることや、メディア＝リテラシー教育も含めた教材を用意して時事問題について考えさせることなどがある。また、「日本の国際貢献のあり方について」や「日本社会のイスラーム受容」などの主題について回答した後、「友人がどのように考えているか、意見を交流したい」という生徒もあり、ディベートや発表という学習形態を取り入れることも考えられる。

平成 1 5 年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成 1 5 年度 第 3 1 号

平成 1 6 年 1 月 2 1 日

編集・発行 東京都教職員研修センター

所在地 東京都目黒区目黒 1 - 1 - 1 4

電話番号 0 3 - 5 4 3 4 - 1 9 7 6

印刷会社名 勝田印刷株式会社